



©WFP/Rein Skullerud



©Mayumi.R

国連 WFP の学校給食プログラム

国連WFPの目標

- 国連WFPの学校給食は、子どもたちに良好な栄養を提供します。子どもは、胎児期から2歳の誕生日を迎えるまでの1000日間の栄養状態が特に重要ですが、給食はその後の年齢においてさらなる心身の健全な発育に資するものです。
- 先生、教科書、勉強に適した環境に加え、学校給食が提供されれば、子どもたちの健康維持や教育促進に非常に効果的です。
- 国連WFPは各国政府との連携の下で学校給食プログラムを行っています。まずは各国政府が国連WFPの支援を受けながら給食事業を継続的に運営し、将来的には支援を卒業し、自国による給食事業を行えるようになることを目指しています。
- 過去45年間で、38カ国が国連WFPからの給食支援を卒業し、自分たちの力で学校給食を実施するようになりました。最後に卒業したのは2013年のエルサルバドルです。

基本情報

- 十分に食べ物と栄養を摂っていない子どもは、勉強に集中することが難しいということが分かっています。
- 世界では、6,600万人もの小学生が空腹のまま学校に通っています。このような子どもたちは、アフリカだけでも2,300万人います。
- 貧しい家庭では、子どもを学校に通わせるか働かせるか、どちらかを選ばなければならないこともままあります。学校給食は子どもを学校に継続的に通わせる呼び水となります。
- 子ども1人につき、1日およそ30円で、栄養たっぷりの給食を届けることができます。5,000円で子ども1人に給食を1年間届けることができます。
- 空腹状態で学校に通う子ども6,600万人に学校給食を届けるために、国連WFPは年間32億ドルが必要になると試算しています。年間12億ドルあればアフリカに住む2,300万人の子どもに学校給食を配給することができます。



©WFP/Rein Skullerud

国連 WFP

学校における食糧支援

●給食

学校給食は、国連WFPが学校で行っている食糧支援の一形式です。子どもたちは学校で朝食または昼食（時には両方）の配給を受けます。この給食は、学校で調理されたり、調理場等から学校へ運ばれて来たりします。給食の内容は様々で、温かい食事を配給する学校もあれば、栄養価の高いビスケットや軽食を配給する学校もあります。

●持ち帰り食糧

学校における食糧支援のもう一つの形式として、「持ち帰り食糧」があります。これは、子どもがきちんと学校に通えば、その子どもの家族全員分の食糧を受け取れるというもの。持ち帰り食糧を受け取るには、子どもが学校へ入学し、一定の日数以上出席することが必須条件です。持ち帰り食糧は、子どもたちが学校へ通うようになったことで生じる家計の損失を補う、という意味合いがあります。また、女の子や遺児など、特に弱い立場に置かれている子どもたちとその家族へは、学校給食と持ち帰り食糧を両方提供することもあります。

国連WFPは可能な限り、食糧の現地調達や、地産地消を推進しています。これは、地域の発展や小規模農家の支援につながります。

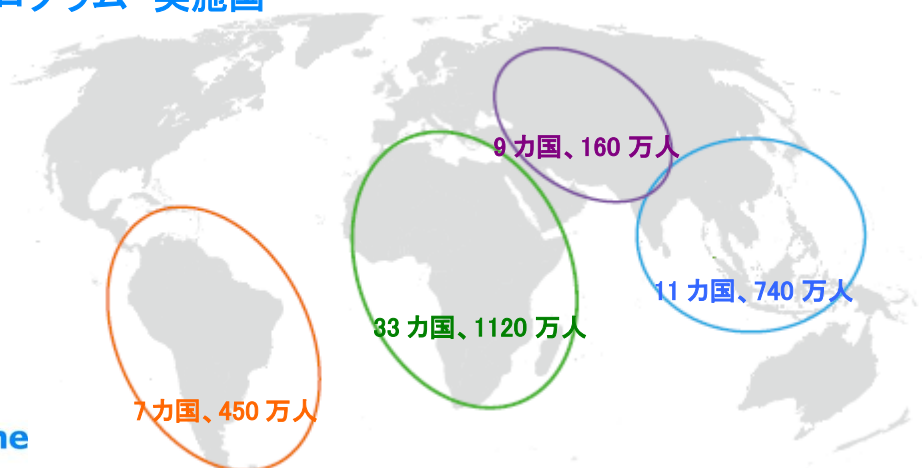
学校給食の重要性

- **教育の機会拡大** — 学校給食プログラムは、貧しい家庭の子どもを毎日学校へ通わせるきっかけとなります。特に、伝統的に女の子が教育を受けてこなかった地域では女の子に重点的に支援を行い、教育の機会を拡大しています。
- **社会保障** — 学校給食は、飢餓、貧困、児童搾取などの悪循環を断ち切るきっかけとなります。国連WFPの学校給食は、HIV陽性の子どもや遺児、障がいのある子どもや元子ども兵にも配給されます。
- **栄養摂取** — 給食を提供すると同時に虫下し薬を投与したり、ビタミン・ミネラル等の微量栄養素を給食に含めたりすることで、成長に必要な栄養を摂ることができます。
- **その他の利点** — 学校は、村や地域社会の中心的な場です。学校で給食を提供することにより、先生、子どもの親、調理士、子ども、農家や市場など、地域社会全体の繋がりがより強くなります。
- **地域農業の振興** — 地元の小規模農家から給食の食材を仕入れることで、地域経済の振興に発展します。また、給食事業自体もより続けやすくなります。

学校給食プログラム実績

- 2012年、国連WFPは60カ国で2,470万人の子どもに学校給食・持ち帰り食糧を届けました。（これには、女子130万人と男子50万人に対する持ち帰り食糧の提供が含まれます。また、各国政府の信託基金により支援を受けた子ども274万人も含まれます。）

2012年 国連WFPの学校給食プログラム 実施国



World Food Programme